

2025年10月1日

帝人と豪セル・セラピーズ、アジア太平洋地域における 細胞・遺伝子治療 CDMO 事業で業務提携

帝人株式会社
Cell Therapies Pty Ltd.

帝人株式会社（本社：大阪市北区、社長：内川 哲茂）と、オーストラリアを代表する細胞・遺伝子治療に特化したCDMO(*)企業である Cell Therapies Pty Ltd.（本社：オーストラリアメルボルン、CEO：Bev Menner、以下「セル・セラピーズ」）は、このたび、日本を含むアジア太平洋地域における細胞・遺伝子治療領域のCDMO事業に関する業務提携の合意書を締結しました。

(*) CDMO：開発製造受託機関

1. 背景・経緯

- (1) 再生医療領域におけるCDMOの需要は、再生医療等製品の開発難易度の高度化や製造開発機能の分業化などを背景として急速に拡大しており、世界の市場規模は2032年には186億米ドルを超えると予測されています。また、国内においても、海外由来製品の参入も含めた再生医療等製品市場は、2030年には8,500億円まで拡大すると見込まれており、日本と海外の開発需要をつなぐ仕組みづくりがさらに重要になると考えられています。
- (2) 帝人グループは、このような国内外の需要拡大に応えるべく、グループ会社である、帝人リジェネット株式会社(本社：東京都千代田区、社長：田中 泰至)の高度な研究・開発・細胞製造体制という中核的事業基盤と、株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング(本社：愛知県蒲郡市、社長：山田 一登、以下 J-T E C)の再生医療等製品に関する上市実績や技術力、ノウハウを強みとして、CDMO事業を展開しています。さらに、国内外のパートナー企業との積極的な提携を通じて、細胞・遺伝子治療を中心とする再生医療等製品の産業化をワンストップで支援できるグローバルなプラットフォームを構築し、多様な開発ニーズに対応しています。
- (3) セル・セラピーズは、オーストラリアにおける細胞・遺伝子治療領域のCDMOを代表する企業です。2003年の創業以来、CAR-T細胞、間葉系間質細胞、iPS細胞などを用いた先進的な治療法の開発から商用生産に至るまで、アジア太平洋地域において最多の受託実績を有しています。
- (4) 今回、帝人とセル・セラピーズは、両社の強みを活かして連携することで、今後さらなる拡大が見込まれるアジア太平洋地域における細胞・遺伝子治療の開発や製造の需要に応える体制を構築できると考え、業務提携の合意に至りました。

2. 今般の合意について

- (1) 今般の帝人とセル・セラピーズの合意に基づき、今後、帝人リジェネットとセル・セラピーズは、J-T E Cの技術やノウハウを活かしながら、アジア太平洋地域における細胞・遺伝子治療の開発や製造に関するインフラ構築を目指して協業します。
- (2) 帝人リジェネットとセル・セラピーズは今後、日本およびオーストラリアにおける市場動向、規制、治験などの情報を相互に共有し、両国において開発や製造の委託需要を有する企業の参入を促進します。
- (3) また、両社がそれぞれ保有する「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準（GMP）」に準拠した製造施設を相互に活用し、技術移管を通じて製造能力の拡充を図ります。
- (4) さらに、共同研修および人材交流などを実施することで、世界的に不足している細胞・遺伝子治療の専門人材の育成にも取り組みます。



帝人リジェネットの CMO 拠点
「岩国ファクトリー」(山口県岩国市)



セル・セラピーズの細胞培養施設

3. 今後の展開

- (1) 今後、帝人とセル・セラピーズは、今般の業務提携を基に、アジア太平洋地域における革新的な細胞・遺伝子治療法を社会実装に向けたインフラ構築を目指し、より強固な協力体制の構築を推進していきます。
- (2) 帝人グループは、再生医療事業における 2030 年度の売上高目標 200 億円の達成に向けて、国内のみならず海外からの開発・製造委託需要の取り込みを図り、設備の拡充や人材育成などの事業基盤の強化と、国内外企業との提携を進めていきます。

以 上

【 報道関係のお問合せ先 】

帝人株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL: (03) 3506-4055